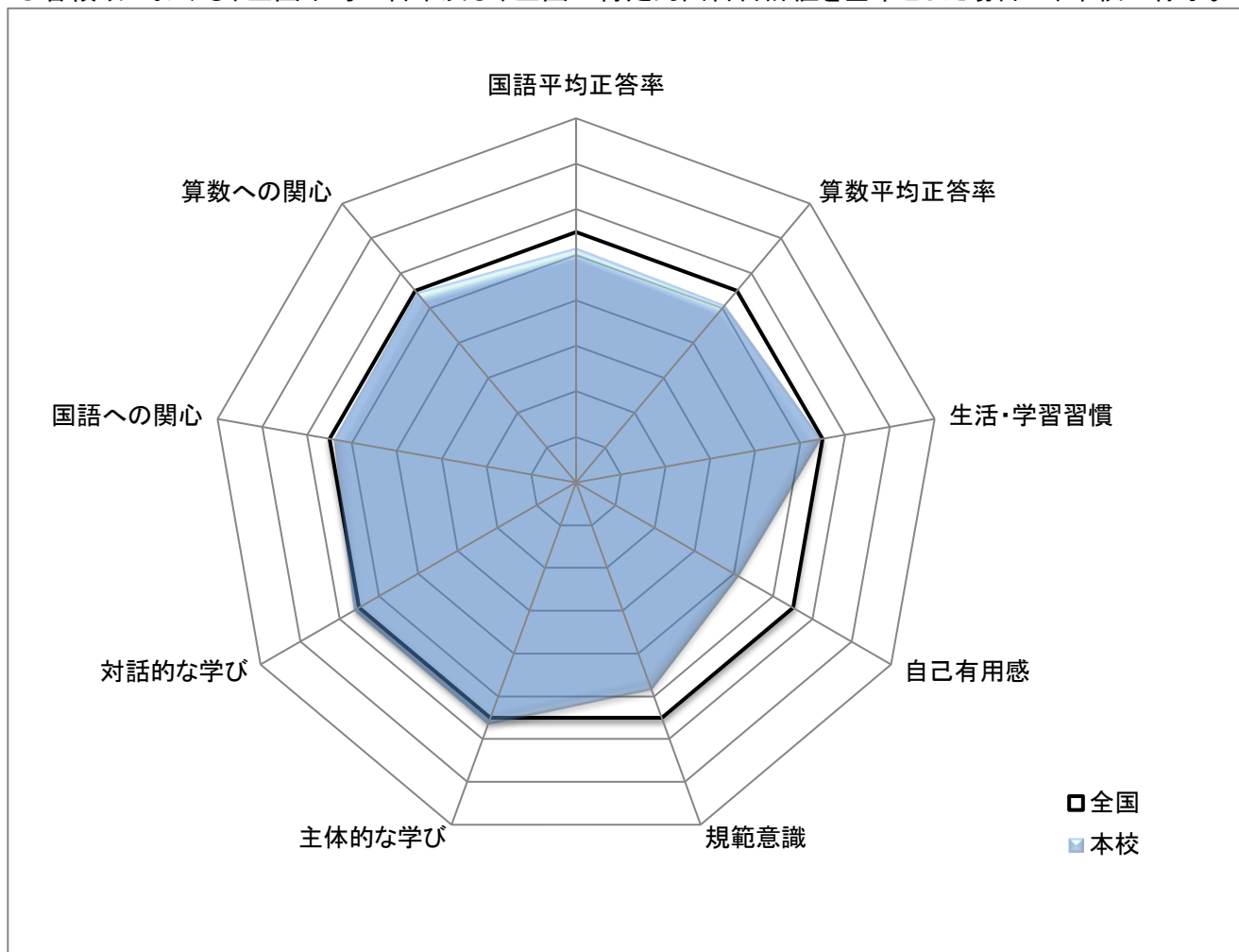


令和4年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語科では、平均正答率は61%で全国平均を4.6%下回った。全国正答率から以下回った問題は7項目あった。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、3問全て正答率が低く、特に、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことの問題は12.3%下回った。

算数科の平均正答率は58%で、全国平均を5.2%下回った。全国正答率から3%以上下回った問題は10問あった。特に、「B 図形」「D データの活用」が5%以上下回った。

《授業改善のポイント》

国語科では、思考力を高めるために、自分の考えだけでなく友達の見解も取り入れながらノートにまとめたり、発言したりする機会を増やしていく。その中で、既習事項の漢字は常に書くようにし、文章を書く過程で、相手にも見やすく丁寧な字を心掛ける指導を継続していく。また、漢字テストなども定期的に行っていく、実践することで、身に付けさせていきたい。

算数科は、本校は習熟度別の指導を取り入れているので、きめ細やかな、個に合った指導をこれからも継続する。また、eライブラリなどの学習アプリを推奨し、家庭学習でも取り組めるようにする。

各教科、単元ごとに、児童の評価をし、実態を把握していく。つまずきが見られる児童には、声をかけていく。

《チャートの特徴》

国語科・算数科ともに正答率が、全国平均を下回った。また、国語科・算数科への関心についても平均をやや下回る。どちらも学習の大切さを感じているものの今の学習が生活や将来にどのように結びつくかイメージができていないため、関心が向きづらいかと思われる。

生活・学習習慣においては、全国平均と同程度である。主体的・対話的に学ぶ態度は、全国平均をやや上回っている。自己有用感に関する項目が全国平均を大きく下回っている。そのため、朝学習の時間を使って、既習事項の確認を行ったり、授業では自分の考えを友達と共有し認め合う場を作ったり、振り返りを記入させたりしながら学習の積み重ねを大切に、自信をつけさせていく。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会や個人面談を通して児童の学習状況を丁寧に伝えていく。学力定着のため、漢字学習・音読・計算などの家庭学習についても家庭に協力をお願いする。eライブラリの活用については、学校だよりで活用方法を知らせるなど工夫をして情報を発信していく。